

5・6・7 月合併号 麦 笛 (第33号 令和2年7月1日)

(今月号からホームページにも毎月アップしていきます。)



急激な世の中の変化があり、「コロナ」という言葉を聞かない日はありません。保護者の方々におかれましては、この間多大なご協力を頂き、感謝を申し上げます。自宅でお子様と過ごされた日々は、いかがだったでしょうか？大変なこともたくさんあったことでしょう。その中でも、ご家庭で過ごされる日々はお子様の成長も見られ、一生の思い出になったことと思います。

また、トイレトパーやマスクの寄附にご協力頂き、誠にありがとうございました。消毒薬だけはなかなか手に入らず、職員が自転車でかけまわったこともありました。

7月からは、保護者の方は通常の仕事になられる方がほとんどだと思います。園では、やっと全員揃った保育がはじまります。保護者の方も、お子様も、しばらくは環境に馴染むことと、この暑さで、肉体的にも精神的にも大変だと思います。加えて、夏休みがとても短いと聞いています。「自粛」も大変でしたが、これからも体調を崩しやすいことでしょう。どうかくれぐれもお体を大切にお過ごしください。園では、ゆったりと保育を行っていきます。何か、子育てでご心配にことがありましたら、遠慮なくご相談ください。

コロナのことは大きく世の中を変えました。この間、子どもたちの登園数が少なく、ゆっくりと一人ひとりのお子様に向き合えた時間になりました。職員もホームワークの時間を使って、日頃調べたかった担当制保育のやり方や言葉かけの大切さなど、個人個人の課題に沿った学びもできました。自分たちで作った年齢にあったおもちゃを、クラスのお子様が遊ぶ姿をみて、とても嬉しかったことと思います。保育はよく「感情労働者」と「肉体労働者」と言われます。また、感情的にならず、どんな時にも冷静に対応すること、背中に目があるように神経を使ってお子様を守り、体がくるくると動くことが求められます。週3日の勤務は、保護者の方にはお叱りを受けるかもしれませんが、とてもよいバランスで仕事をする事ができたように思いました。保育環境整備も、行政の示す配置基準の職員数では、なかなか行うことができません。保育(医療や他の福祉等)はテレワークにできないからこそ、これからもゆったりとおおらかに、保育士が子どもたちに向き合える時間と環境が確保されるような、行政の基準を作ってほしいと切に願った数か月でした。